

新しい年を迎えます。

1999年が皆さんにとって良い年でありますようお祈りします。

人生には苦難がつきものです。苦難こそ人の成長と心の平和に欠かせない要素だともいいます。

チベットの人はこんなふうに祈るそうです。

「この旅で私にふさわしい苦難を与えて下さい、私の心が真に目覚めて解放され、宇宙と一体になれますように」と。

何の苦勞もない人生は成長する機会がありません。

お互い今年も大いに成長しましょう。

< 第41・42回ほほえみの会 >

ともに6～7人が集まりました。先月は多忙で会報を出せませんでした。お詫びします。

県がんセンターの基本設計が出ました。我々が要求していた小児の診察もしてもらえることになりました。小児用の病室は個室と2人部屋合わせて9床です。

建設場所は長泉町の東名高速沿いで沼津インターの東側です。

平成11年から工事に入り14年に開院する予定です。

厚生省から「子どもが入院している家族の経済的負担を減らし、子どもの情緒不安をなくすため家族が宿泊できる施設を整備する」という計画が出されました。

一施設5部屋程度で、全国40カ所、一カ所につき4500万円の補助金を出すということです。

こども病院には、院内宿泊施設はありますがあくまでも一時的な緊急を要する人専用で、長期入院の人はホテルや近くのアパートを利用しています。

家族は二重生活を強いられる上に、経済的負担も大きく是非施設の設置をお願いしたいと思います。

現在、こども病院でも建設に向けて検討をしてくれています。宿泊施設の場所は病院内にあれば家族と子供と一緒に寝ることもできるし、看護婦も直ぐに行けるメリットがあります。

一方、家族の日常生活やプライバシー、また入院している子供が気分転換を図れるという意味では病院と離れたところが良いという意見もあります。

それらの意見を総合し、また補助金の額も考えた上でこども病院では病院前の駐車場横にある看護婦寮の利用を考えています。

現在空きがある寮を改築して、冷暖房そして風呂も完備した家族用の部屋を作るよう検討しているということです。

ボランティアの援助

会のあった日、病院ではボランティア説明会が開かれていました。一般に募集したところ150人の応募があったそうです。

その数に驚きましたが本読みやプレイルームでの遊び、保母さんが帰った後の面倒見などをしてもらうそうです。

会でも「面会時間に兄弟の面倒を見てくれる人がいない」という悩みはいつも出ています。親の会、総会でも同様です。

そこで病院の担当の方に、それらの時間面倒を見てくれるボランティアの人がいないか頼んでみることにします。

親の会

最近「ほほえみの会」への出席者が減少の傾向にあります。

土日は外泊する人が多く、またA2では食事の時間と重なってしまうこともあります。患者の数が減っていることもありますが、会の開催日時などご意見がありましたらお寄せ下さい。

同様の親の会は全国に10もないといえます。

「ほほえみの会」は医師や看護婦に相談できない悩み、医療以外の家族の問題や病院への不満など、辛さを知っている者同士、他ではいえない話ができる場、そんな存在でいたいと思います。

また院内に昨年亡くなった方の家族の会「陽だまりの会」ができました。

次回は 1月10日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一